



議会だより



男のしょの会（3月12日）

3月定例会 “ 県内最高レベルの教育環境づくりへ！ ”	2 ページ
平成26年度 予算審査特別委員会議案審議におけるQ&A	4 ページ
一般質問 4名登壇	6 ページ
村民の声 「市町村合併について考えること」	10ページ

レベルの教育環境づくり!

中学校グラウンド改修 / 小・中学校 ICT授業継続

中学校グラウンド改修設計費

関川中学校 PTAから「グラウンドの水はけを良くして欲しい」との要望がありましたので、村としてグラウンド全体を整備する予定です。

550万円

そのための改修設計費です。

26年度は設計を委託、工事着工は27年度の予定です。

財源は過疎対策事業債です。

ICTシステムリース料

小、中学校のICT教育を、村独自で支援します。

658万円

総務費

■土地建物購入・改修工事費 **3000万円**
山水苑の土地・建物を購入入します。改修した後、集落施設や農産物加工施設として活用します。

■新エネルギー事業造成工事費 **500万円**
メガソーラー事業を計画している企業を支援するために、旧美穂農場跡地の造成工事を行います。

■キラリと光る地域活性化補助金 **700万円**
財源は、村税のおよそ1%です。村民が豊かな発想と視点で行う事業に補助します。

■通学用定期券購入補助金 **540万円**
対象は、中等教育学校生と高校生です。JRとバスの定期券購入費用の30%を補助します。

■ハザードマップ作成委託料 **400万円**
本年度は荒川右岸の河川の氾濫を予測した災害の発生地点、被害の拡大範囲、被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報をマップ化してお知らせします。

■社会保障・税番号制度導入システム設定委託料 **599万円**
平成27年に行われる個人番号、法人番号通知に向けて、今年度は国から来る番号を住民の皆さんに付番するためのシステム構築を行います。

■社会保障・税番号制度導入システム設定委託料 **599万円**
平成27年に行われる個人番号、法人番号通知に向けて、今年度は国から来る番号を住民の皆さんに付番するためのシステム構築を行います。

■ハザードマップ作成委託料 **400万円**
本年度は荒川右岸の河川の氾濫を予測した災害の発生地点、被害の拡大範囲、被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報をマップ化してお知らせします。

※共通番号制度(マイナンバー制度)は、複数の機関に存在する個人の情報を、同一人の情報として取り扱うものです。

■ハザードマップ作成委託料 **400万円**
本年度は荒川右岸の河川の氾濫を予測した災害の発生地点、被害の拡大範囲、被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報をマップ化してお知らせします。

3月定例会

26年度 予算決定

一般会計予算総額 44億1,800万円

平成26年度第1回定例会が3月6日～18日の13日間の会期で開かれました。

初日は、村長が平成26年度施政方針を表明、一般質問では4人の議員が登壇しました。上程された議案は、質疑を経た後、各常任委員会・予算審査特別委員会へと付託されました。

最終日には、議案1件を除いた他が可決されました。

県内最高



条例

●職員の再任用に関する条例の制定

※再任用に関する条例を明文化しました。定年に関する条例・給与に関する条例なども一部改正となります。

●消費税8%による一部改正

- 健康保険診療所設置条例
 - 野外活動施設等及び管理に関する条例
 - 鷹の巣キャンプ場施設等及び管理に関する条例
- ※右記に消費税3%分が上乘せられます。

公共下水道条例の一部を改正する条例は否決されました

反対討論／近 良平 議員

新設工事費用の負担を原因者にさせる事は、新設工事負担と加入金負担との2重負担になる。新しく住居を建てたいという人を阻害する。

農林水産業費

■青年就業支援事業補助金 600万円

青年の就業前の研修期間（2年以内）・経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保する補助金を、年150万円給付します。最大7年間で1050万円。

財源は100%国の負担です。

■多目的機能支払給付金（農地維持、資源向上） 1193万円

日本型直接支払いの創設による、農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るための給付金です。

衛生費

■成人病予防健診、特定健診委託料 1219万円

今年度からは肺炎球菌、もの忘れ健診も実施されます。

商工労働費

■プレミアム商品券 1100万円

好評のため、昨年追加発行した経緯から、今年度は追加分を含め増額します。

お得です



民生費

■賞賜費（老人福祉対策） 330万円

介護サービスを受けていない75歳以上の健康な高齢者に、プレミアム商品券を贈呈します。

土木費

■土地購入費、物件補償費 670万円

道路拡張工事の土地購入費と物件補償料です。場所は、上野新・上土沢地内です。

議案審議における Q&A

産業建設委員会

Q 青年就農支援事業補助金の要件は。

A 準備型と経営開始型の2つの事業があり、就農予定時の年齢が原則45歳未満であることです。

準備型（県が事業主体）は農業経営者となる強い意欲を有している者で、独立・自営就農または雇用就農を目指すことなどです。

経営開始型（村が事業主体）は準備型の引き続きでも利用でき、独立・自営就農であることなどが条件になっています。

Q 中山間地域等直接払支払制度の測量調査委託料は。

A 鮎谷地内が新しく協定を結ぶので測量します。

Q 道路ストック委託料は。

A 大石ダムトンネルの所を社会資本整備総合交付金事業で実施するもので、長寿命化点検です。

Q 猟友会員の高齢化が進んでいる。会員の育成を考えてもらえないか。

A どういう政策、施策をしたら入会してもらえるのか、いい方策があれば提案いただきたい。

Q 地産地消補助金 毎年あいさい市の補助金が同額であるが。

A 今のところは出荷されている部分についての補助金であるため、例年と同額です。あいさい市利用組合との契約では、あいさい市利用組合が20%のマージンを取るようになっており、そのうち村が5%を補助しています。

Q ふるさとふれあい農園は、毎年同様に花を植えるのか。

A 湯沢の3区画は畑です。その他については菜の花を植える予定です。

Q どのような養殖をやめた経緯は。

A 12月ごろ渡産業から事業撤退の話がありました。どじょうはある程度成魚になってきたのですが、燃料の高騰や採算性が見込めなため、この3月で撤退したいとのことでした。

Q 道路改良工事請負費 上野新中束線、南赤谷上関線の場所は。

A 南赤谷上関線は変電所の付近です。上野新中束線は25年度からの続きであり、上野新の残っている箇所です。

Q スキー場の継続は。

A 今後も継続する予定です。

Q スキー場の土地の契約は前回とは状況が変わってきているが契約はできるのか。

A 地権者に反対があると契約は難しいと思います。が、対応を考えます。

Q スキー場の経営者からは賃借料はもらわないのか。

A 賃借料はもらっていません。しかし、スキー場の収益が上がってきたら村からの支出をできるだけ減らしていこうと考えています。このような村の考え方も経営者には理解していただいていると思っています。



平成26年度 予算審査特別委員会

総務厚生委員会

Q 地方交付税は、減税される想定をしていた。その推移は。

A これからも大きく減るという要素はないと思われます。

Q 年々空き家が増えている。課税の対象は。

A 建物がある限り課税されます。しかし、建物を壊して更地になった時点で課税の対象にはなりません。

Q 太陽光発電は、固定資産税をかけないのか。

A 税は法例によって課税されます。

Q 村民税が年々減っている。どの程度まできたら上げるつもりか。

A 地方税法に基づく標準税率を採用しており、簡単に上げることはできません。

Q システム委託料のマイナンバー制とは。

A 一人ひとりに固有の番号を付け、税・医療等すべてのもをそこで処理しようというものです。運用は平成28年1月からです。

Q 今年の大規模な防災訓練にどれくらいの村民が動くと考えられるか。

A 5月頃に自主防災会の連絡協議会を母体に、段取り・相談することになります。

Q 新エネ推進事業費の670万円の予算は。

A 木質バイオマスと太陽光発電の両方です。造成工事の500万円は、太陽光発電事業のための木を伐採したりなどの造成に必要です。旧女川中グラウンドの周囲の桜の伐採も必要かと思われま。

Q 木質バイオマス発電の可能性はかなり低くなっているのでは。

A そういうことはありません。新潟県森林組合連合会でも木材の確保のシステム作りを一生懸命やっています。

Q 耐震性貯水槽整備工事は新しい防火水槽を作るのか。

A 3ヶ所を計画しています。防火水槽は、集落と消防団からの要望です。

Q 保育園の統合の話はあるのか。

A やらなければならぬ状況になっています。女川保育園では26年度の入園児がいけません。保護者の希望で下関・大島に通わせているようです。

Q 介護保険給付費が、前年より少ない。減った理由は。

A 介護認定者が多い時は465人でした。今は340人程です。亡くなられた方もいますが、介護予防事業に力を入れた効果もあります。



質 問



佐藤 友之 議員

テレビ番組へ応募して欲しいとの村民の要望について

情報を収集しながら、

村でやれるかどうか検討したい

村長の農業政策は？

やる気のある人たちを

いろいろと支援したい

議員 テレビ番組

「もてもてナインティナインのお見合い大作戦」に村でも応募して欲しいとの要望に対して伺う。

村長 配偶者対策は、人口減少に歯止めをかけるためにも重要な課題です。

村としても、県の出会いサポート事業を活用した婚活イベントを実施しており、キラリと光る地域活性化事業を活用した実績もあります。ただ村が主催するような婚活イベントに参加することを周知の人に知られたくないという声も多くあります。また、婚活イベントは全国的にも数多

く行われていますが、婚活をうたい文句にした事件も発生しています。「婚活サイト」をきっかけに高額な不動産の購入を勧められ負債を抱えるといった内容で、全国的にも急増しており、十分に見極める必要があります。

また、テレビ番組については、婚活以外で誘致した経緯がありますので、内容を調べて、情報を取り寄せて検討したいと考えています。

議員 この質問は、村民のサイレントボイス（行政に対して届

きにくい声）にどういう対応をとるかという趣旨で質問したわけだが、犯罪に巻き込まれるだとか、婚活と結びつけてそういったことを話すのはナンセンスである。婚活することによって、これだけ犯罪に巻き込まれる根拠を詳しくご説明願いたい。

村長 それだからやらないというわけではありません、そういった情報もありますので、村が主催する場合に十分に配慮しなければなりません。

議員 国、県の補完としての役割については、既にわかっていることだが、それでは、村単独

発電所事業の状況は？

企業誘致という形で検討する余地がある

議員 木質バイオマス発電の状況について伺う。

村長 3月4日バイオライザー

・ジャパン社より、アメリカのバイオライザー社が100%資金調達をして関川村で実施操業

したいという提案がありました。いわば企業誘致という形で村のリスクは極めて少なくなります。今は、向こうで持つという出資の範囲、機械について検討する余地があります。

木材の確保や事業の推進について支援をしていただいている皆様方にいろいろとご迷惑、ご心配をかけてしまい大変申し訳なく思っています。早期に決断しなければならぬ状況です。

議員 村長の農業政策について伺う

村長 農業は実質的には国策です。村の施策で方向性を変えられるものではないというのが事実です。村の政策はそれをあくまで補完する役割と考えています。

国や県の制度を活用し、村の状況に合った振興策を展開していきたいと考えます。

議員 国、県の補完としての役割については、既にわかっていることだが、それでは、村単独

の政策支援について再度伺う。

村長 今回、女川地区の圃場整備事業が本格化します。土地改良区に加入していれば国の有利な助成が得られるため、女川地域の方々にご理解いただき、今日に至っています。村は、国の農政について補完する部分ではないかと考えています。

議員 国の政策の話ではない。例えば、あいさい市の出荷者の減少に対し、出荷者や作物に対していろいろ支援するとかである。

村長 やる気のある人たちを支援したい。あいさい市については、場所、設備、面積的にも十分な機能は果たしていないため、場所を広くするか、あのエリアの中で別な場所に設けるか、今検討しています。

般



信男 議員 伝

木質バイオマス発電なぜパイロライザー社にこだわることなのか？

早期に選択できるのであれば選択肢はある

議員 バイオマス発電所建設、計画から一年半たっても何の進展も見られない。

建設を予定している装置は夢の様な装置で、雇用対策のためにも急いでやらなければならない理由で、運営会社パワープラント関川を立ち上げ運営資金を借り入れた。

村長 村民の皆様への説明につきましても機械の検証が終わり、これならできると決断し、金融機関からの融資が決定、もしくは確実というような時点で開催したいと考えています。状況が時々変わりますので、どのタイミングというようなこともなかなかつかみにくいのも現実であります。

議員 夢のような発電装置だと建設を計画したのに、なぜ大学の先生にお願いして調査しなければならぬのか。また、その報告は建設計画においてどの程度重視するのか。

村長 この話はパイロライザー社から持ち込まれたものであり、パイロライザー社が提案するドイツのKUG社で開発したガス化装置は世界でもトップの性能です。この点につきましては専門家もほぼ評価をしています。それに連結するエンジン、発電機の選定が課題です。それら全体を見て、それに匹敵するもので、早期に選定できるものであれば、それも選択肢の一つにすることはやぶさかではありません。現在、パイロライザー社にこだわっています。紹介してくれた機械を検証中であるという理由です。

村長 疑問とか、疑いという表現ではありませんが、私はこの事業に対しての情報が十分ではないと考えています。また新たな提案があり、それを早期に検討しようという段階を迎えています。

契約書については、パワープラント関川とパイロライザー社が結んだ契約書ですので、パワープラント関川にお願いしながら開示しなければならぬと考えています。



議員 建設を計画しているバイオマス発電所が、なぜパイロライザー社の装置でなければならないのか。

議員 建設を計画しているバイオマス発電所が、なぜパイロライザー社の装置でなければならないのか。

村長 すべて決まっています。報告するということではありません。また、今新たな提案が出ています。それは、企業誘致の様な形で新しいエンジンを持ってきたという提案です。その際、村のリスクはゼロでは

ないという返事で現在に至っている。また、村民への説明は計画がどこまで進展したら実行するのか。

質 問



渡辺 秀雄
議員

スキー場にハーフパイプの設置を 土地貸借等の問題があり難しい

議員 ソチの冬季

五輪、スノーボード男子ハーフパイプで15歳の平野歩夢選手（村上第一中学校）が冬季五輪の日本勢では史上最年少で見事に銀メダルを獲得した。

村上市では今後どうスキー場にスノーボードハーフパイプの設置を検討していくようか。わかぶな高原スキー場もこれを機会にハーフパイプを整備すれば、圏域で連携し入場者数の増加を図りながら将来のメダリストを育てる大きな夢に繋がると思う。村長の考え

を伺う。

村長 スノーボードハーフパイプの設備については、16、7年前から6年間だけわかぶな高原スキー場で、規模は小さいながら設置していました。

しかし、維持管理が大変だったことと、そこにリフトが無かったことで利用者

数が伸び悩み、現在は止まっている状態と聞いています。

スキー場の経営は、株式会社わかぶな高原スキー場に任せているので、ハーフパイプの設置について経営者がどのような考えを持っているか、今のところまだ把握していない状況です。

議員 ここ数年間、わかぶな高原スキー場の入場者数は毎年数千単位で伸びていて、平成21年度が4万6000人、24年度は5万8740人に上っている。オリンピックの影響でさらにスキーヤー、スノーボーダーが増えているとマスコミでも報道されている中で、村

としてもこの流れに乗るべきと思うが。

村長 新たに設置するには土地貸借の問題等ハードルもあります。

経営者と情報交換をしながら検討していきます。

小中学校の土曜授業について 教育委員会で検討していく

議員

土曜授業について昨年11月省令改正を受け、ある調査機関が抽出した576市町村の教育長を対象にアンケート調査を行ったところ、232人の回答があった。調査の結果は、教育課程内に位置づけた土曜授業の実施について、「ふやす」は約4%、「検討中」

は30%、「現状維持」が過半数を占めたが、この中には省令改正前から土曜日に授業を行っていた自治体もあった。

この調査結果を見て、村長はどのように捉えているのか、また今後どのように生かしていくのか教育長に伺う。

教育長 現段階ではまだ答えは出していません。

広く意見を聞く、或いは県教育委員会の考えも調査しながら今後教育委員会で検討を始めたいと考えています。

議員 昨年9月の定例会一般質問で、同僚議員が本村の小中学校の全国学力テストの成績は、との質問に具体的な数字は公表できませんが、県内で中程度くらい

の成績でしたと答弁された。学校の教育方針あるいは保護者の立場からも子どもの学力向上、道徳学習が一番大事なことであり、それは土曜日授業で更に高めることができると思うが。

教育長 学力の面からは授業を増やした方がためになると思いますが、保護者の考えや教職員の要望等を加味しながら問題解決していきたいと思っております。

般



津野 庄衛 議員

行政要望の採用基準は

法令・経緯・緊急度・老朽度等
特定財源の確保と合わせ総合的に判断する

議員 毎年集落が行政要望をしているが、予算がないから無理だという声が聞かれる。

不況下の中、各種事業については財源の確保が課題だ。急を要する事業、

急ぐ必要のない事業を客観的な立場から検討してはどうか。

行政要望の採用基準と今後の見通しは。

村長 要望は200件を越えます。その多くは村道に関するものです。

要望事項は各担当で現場や状況を確認し、法令や経緯等を調べ、村で行う事業か判断します。そして、所轄の課で緊急度・老朽度のランク

づけをしています。

村道の維持補修等は、要望がなくても必要な場合実施することもあります。

厳しい財政の中、国県の補助や有利な地方債など特定財

源の確保と合わせて総合的に判断しています。

客観的に判断する仕組みは、事業規模が小さく、財源確保

によって採択事業が変わる本村には馴染まないと思います。

「道の駅」付近の活性化を 有利な制度を活用する

議員 本村の「道の駅」には、温泉施設「ゆくむ」、

あいさい市、猫ちぐら館、食堂施設等好条件に恵まれている。もっと有機的連携

によって活性化を図られないものか。

村長 道の駅は本年20周年を迎えます。県のデータでは約80万人で実質の利用者は40〜50万人とみています。「ゆくむ」独自では15

万3000人の入り込み数です。

です。(2012年度)

有機的連携では、国道横断をより安全にしたり、雨

に濡れないような施設も今求められています。財源的に有利な制度を利用した整備を考え検討します。

観光ボランティア活動にも感謝しています。

「ゆくむ」周辺の客をいかにして経済的に村の中心部へ導くかが大きな課題です。

教育再生推進法(仮称)について

子どもを第一に慎重に検討する

議員 教育再生推進法が先の国会に提出された。

法案の一つに「授業日数や土曜授業等教育課程の充

実」など規定している。新聞報道によれば土曜授業を増やすが3.9%。検討中

29.6%、現状維持が56.2%で、本県の刈羽村が検討中とある。

教育活動には色々あり、実施となると難しい課題があると思うが、現時点での教育委員会の認識を伺う。

教育長 教育委員会ではまだ話し合っていないです。

しかし、色々な角度から検討しなければならぬ時期がきています。早目に委員の考えを把握したいと思っています。

教職員組合では反対とのことですが、子どもを第一に考えて慎重に検討したいと思

議員 土曜授業については9月議会で質問したが、省令改正を受けての再質問である。

学力の定着を図るため東京都では小学校1117校、中学校580校(区立)が実施している。私立の学校

が週6日制が多いため「区立でも私立並みの教育を」と要望する保護者が多い。

文科省では、自治体の判断で取組やすくする方針を決めた。予算の概要要求で支援策を盛り込んでいる。

本村は教育村と言われ、「六・三・三制発祥の地」でもある。前向きな検討を期待する。

村民の声

市町村合併について考えること

かとう けい太さん
加藤 慶太さん
(鮎谷)

私は「市町村合併」という言葉をメディアで目にする度、平田村長の「小さくてもキラリと光る村づくり」という言葉を思い出します。4年前の春、私がまだ学生だった頃に、村長と合併についてお話しさせていた、機会がありました。そこで関川村が合併せずに生き残っていくために大切なこととして、おっしゃっていたことを今でもよく覚

えています。

さて、平成11年に地方分権一括法が成立し、市町村の合併の特例に関する法律が強化されたことを契機として、市町村の自主的な合併、いわゆる「平成の大合併」が全国的に推進されました。近年、市町村合併の波はおさまったように感じますが、実際には全国の市町村数は3,232（平成11年3月31日現在）から1,719（平成26年1月1日現在）と、15年もの間に半数近く減少したのです。一般的には、市町村合併は「規模・能力の拡充」「行財政基盤の強化」等を達成し、合併した市町村は地域の課題に対応して、まちづくりにも積極的に取り組んでいるとされています。しかし、その反面で、「財政問題は解決していない」「過疎化の進行」「顔の見えない行政」「住民サービスの後退」「地域の伝統や歴史の喪失」等、合併がもたらす弊害も生じてきております。単に市町村合併と言っ

てもその効果検証は難しいものがあると言えるのではないのでしょうか。

関川村は、平成15年3月の村議会で、合併しないことを決め、自立の道を歩んでいるわけでありませんが、私は賛成です。なぜなら、市町村合併と言うのは、行政効率や財政危機の解決が声高に語られているだけで、一番重要であるといつても過言ではない住民の生活や福祉、教育、文化などがどうなるかについて、十分な議論がされていないという

現実があると考えるからです。当たり前のことかもしませんが、大切なのは、我々村民と村が一体となつて、身の丈に合った村づくりを進めていくことではないのでしょうか。

関川村は、美しい自然と美味しい農畜産物にも恵まれており、世界に誇れるまつりもあります。そして何よりも「豊かな心」があると感じています。これから「キラリと光る村づくり」に期待したいと思いま

関川村議員 古川芳房氏ご逝去
(平成二十五年十二月三日五十七才)
関川村議員 須貝謙一氏ご逝去
(平成二十六年三月三十日六十七才)
村発展のため御尽力をいただきましたことに
議員一同感謝申し上げますと共に、御冥福を
お祈り申し上げます。

関川村議会

編集後記

■根菜が丁寧に刻まれてゆく。それらが投入されるはずの鍋では、豚肉がジュウジュウと音をたてて炒められている。■料理をしているのは「男しよの会」の皆さん。65歳以上の一人暮らしの男性たちが「作って食べる」を、10年以上も共有してきた。■「親類だと思つています」「色々あつた」でも辞めのでよがつた」「一人はつまらね」「うつ状態だつたども外出がおもしろなつた」ーランチタイムに一人ひとりが思いを語つてくださった。てらいのない言葉、すすめられて一緒にいただいた大盛りの料理。心身に染みだ。■男しよの会の食は、コミュニケーションツールの一つでもあつた。人と人が助け合い繋がつて生きている。春まだ浅い村で、温かな陽だまりを見つけた。

平田(ゆ)

委員長 平田 友之
副委員長 佐藤 野
委員 津野 庄衛
広報対策特別委員会
委員 渡辺 秀雄
委員 平田 広